



多くの病害虫に
要注意！

茶指導販売課 亀山毅人

来年の一番茶に影響

これから秋にかけて、光合成が最も盛んに行われる時期になります。この時期に生育した葉は、樹勢維持や貯蔵養分蓄積に重要な役割を果たし、来年の一番茶の生産に大きく影響します。健全葉を多くつけておくためにも、病害虫防除や土壌中の養分管理、水分管理など茶園管理を徹底しましょう。

病害虫防除

7月になると多くの病害虫が発生します。防除情報などを参考に茶園をよく観察し、適期防除を心掛けましょう。

①二番茶摘採後〜三番茶萌芽期

チャノコカクモンハマキとチャハマキの第二世代幼虫発生期です。

②三番茶萌芽期〜開葉期

チャノミドリヒメヨコバイとチャノキイロアザミウマは、高温で乾燥した気候が続くと多発します。10〜20日で卵から成虫になり、20日以上生存します。雨が多い場合は炭そ病が発生し、さらに山間部ではもち病も多発します。開葉期と2〜3葉期の2回散布が効果的です。

中切り更新園の処理

一番茶後に中切り更新した茶園は、せん枝60〜70日経つと再生芽がかなり伸びてきます。再生芽をそのまま放置しておくとも芽数が減り、収量も減少します。中切り面より5cm程度（2葉くらい）残した位置で整枝しましょう。

土壌と根の関係について

生産を安定的に持続させるためには、土づくりが重要です。土壌の物理性や科学性など土壌生態系に適した条件を保ちましょう。

【物理性の良い土壌】

①根をしっかりと支え、根が伸びるのに適度な硬さをもつこと

②透水性、通気性、保水性を兼ね備えていること

【根の役割】

- ①水分と肥料成分を土壌から吸収し、地上部へ送る
- ②肥料成分と同化養分の貯蔵（中根太根で秋から冬）
- ③テアニンなどアミノ酸の合成（細根）
- ④地上部を大地に固定する

【根の生育】

- ①地温25℃程度で根と新芽の生育が旺盛。茶の品質は、地温が低い方が良い（特に冬場）
- ②酸素と水分が必要
- ③物理性の良い土壌
- ④根の生育を阻害する物質が無いこと（亜硝酸、過剰施肥など）

※土壌改良の参考資料としてご利用ください。